

令和3年度文化庁日本語教育大会オンラインシンポジウム

# 「日本語教育の参照枠」から考える これからの日本語教育の展望

- 「留学」の事例説明 -

奥田 純子（コミュニカ学院）

COMMUNICA INSTITUTE

<http://www.communica-institute.org>



# 法務省告示 日本語教育機関における「留学」の事例

## 法務省告示 日本語教育機関 (818校)

「留学」期間：6か月～2年  
授業時間数：1年 760時間～  
2年 1520時間～  
レベル：PreA1～C2  
対象・目的：進学 (70%)  
就職 (20%)  
その他 (10%)

## コミュニケーション学院 1988年設立

「留学」期間：2年  
授業時間数：2年 1536時間+44時間  
レベル：PreA1～B2  
対象・目的：進学 (35%)  
就職 (35%)  
その他 (30%)  
趣味/教養 体験 定住

# コミュニケーション学院「留学」2年コース カリキュラム概要



1. 教育課程の目的
2. レベルの設定と科目群
3. 各レベルの包括的到達目標と科目配置

4. レベル別・科目毎の到達目標
5. Can doの種類別数
  - 活動Can do
  - テキストCan do
  - 方略Can do
  - 能力Can do

# 1. 教育課程の目的：言語使用者・学習者を中心に

- 日本語ユーザーとして、自分らしいキャリア形成、社会文化的生活の実践
- 日本語ユーザーである「わたし」への自信・自己肯定感の維持
- 日本語学習者として、学習者オートノミーによる自律的な自己主導型学習の実践
- ことばが持つ根源的な力の理解

## 2. レベルの設定と科目群

各Step3か月 192時間 × 8 = 1536時間

コミュニケーション学院 レベル名	共通参照 レベル
Step1+	C1
Step1	B2.3
Step2	B2.2
Step3	B2.1
Step4	B1.3
Step5	B1.2
Step6	B1.1
Step7	A2.2
Step8	A0-A2.1

科目群	科目・内容	時間数 3か月
日本語プロパー系	日本語コミュニケーション、 発信表現、記述、読解、聴解など	121～ 175
キャリア系	大学・大学院進学演習、 JLPT・EJU・BJT対応、 日本就職事情、ビジネス日本語など	0～36
ダイバーシティ系	異文化理解、 ランゲージ・アウェアネスなど	9～18
マネジメント系	ポートフォリオ学習など	4～8
その他	行事(式典、オリエンテーション等)	8～12

# 3. 各レベルの包括的到達目標と科目配置

カリキュラム概要(2年課程) コミュニカ学院 2021年度イヤーブックより

ターム	3か月(192時間)		3か月(192時間)		3か月(192時間)		3か月(192時間)	
レベル	Step8 (PreA1~A2.1)		Step7 (A2.2)		Step2 (B2.2)		Step1 (B2.3)	
包括的到達目標	留學生が日常的に遭遇する場面で、周囲が協力的であれば、自己紹介・食事・買い物・学習などの最低限のコミュニケーション課題を日本語でこなすことができる。自分自身に関するごく基本的な情報について読み書きができ、相手が協力的で外国人との接触に慣れているならば、口頭で簡単なやりとりができる。		留學生がよく遭遇する場面で、病院・交通機関の利用・アルバイト等の基本的なコミュニケーション課題を日本語だけでこなすことができる。ごく身近な話題に関する簡単な情報について読み書きができ、相手が協力的ならば、口頭でのやりとりもできる。		あまり専門的ないし複雑なテーマでなければ、まとまった談話を聞く、資料を読む、レポートや報告書や社外メールを書く、ディスカッションや部内会議への参加、発表をする等のコミュニケーション課題にある程度対応できる。語彙や速度のコントロールがほとんどなくても、聞いたり読んだりして情報の大意を難なく把握できる。あまり時間をかけずに自分の意思を口頭や文章で概ね正確かつ詳細に伝えることができる。		講演や講義など、まとまった談話を聞いて要旨を的確に理解する、短時間で資料を読んで正確に理解する、構成のよいレポートや報告書やビジネスメールを書く、テーマに沿ったディスカッションや発表をする、取引先との会議や打ち合わせに参加する等のコミュニケーション課題に概ね対応できる。語彙や速度のコントロールがなくても、聞いたり読んだりして情報の概要や要点をその場で把握できる。時間をかけずに自分の意思を口頭や文章で正確かつ詳細に伝えることができる。	
学習方法	学習者オートノミーを行使した学習ができるように、学習の選択権・決定権を徐々に大きくしていく。教師が教えることを徐々にやめていくことで自ら学ぶ。アクティブ・ラーニング、ピア・ラーニング、CLIL、日本語ポートフォリオを使った自己主導型学習など。							
主な使用教材	『日本語コミュニケーション vol.1, vol.2 Step8』(コミュニカ学院)、『NEJ vol.1』(くろしお出版) ほか		『日本語コミュニケーション vol.1, vol.2 Step7』(コミュニカ学院)、『NEJ vol.2』(くろしお出版) ほか		『読むカー中上級』『留學生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解中上級』、オリジナル教材など		『読むカー上級』『留學生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解上級』、オリジナル教材など	
	科目名	時間	科目名	時間	科目名	時間	科目名	時間
科目1	日本語コミュニケーション	59	日本語コミュニケーション	59	発信表現	18	発信表現	18
科目2	発信表現	45	発信表現	45	語彙表現法	32	語彙表現法	32
科目3	文法	18	文法	18	読解	36	読解	36
科目4	読解	12	読解	18	聴解	18	聴解	18
科目5	聴解	18	聴解	18	記述	9	記述	9
科目6	漢字語彙	15	漢字語彙	9	漢字語彙	9	漢字語彙	9
科目7	異文化理解	9	異文化理解	9	キャリア系選択科目	36	キャリア系選択科目	36
科目8	総合学習	4	総合学習	4	異文化理解	18	異文化理解	18
科目9	定期試験	12	定期試験	12	総合学習	4	総合学習	4
科目10		192		192	定期試験	12	定期試験	12
時間数						192		192
科目外	行事(式典、オリ等)	(12)	行事(式典、オリ等)	(4)	行事(式典、オリ等)	(4)	行事(式典、オリ等)	(8)

# 4. レベル別・科目毎の到達目標

# 科目ガイド: B2.2読解

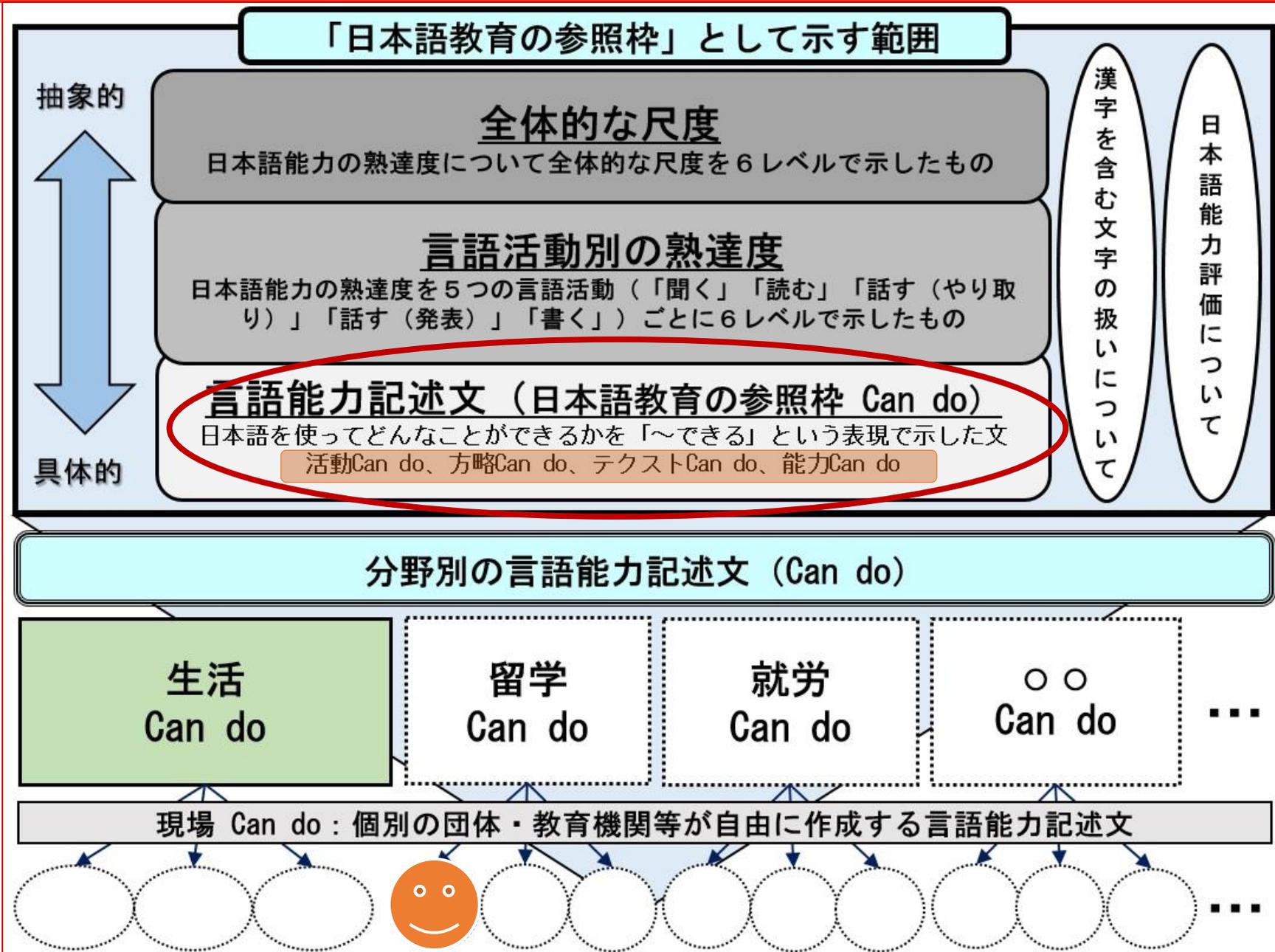
レベル	コミュニケーション学院 Step2(B2.2)
科目名	読解
コマ数	32時間(1回2時間、全16回)、50分/コマ時間 期間:3か月
目的	幅広いジャンルやテキストタイプのオーセンティックな文章を読む力をつける。筆者の論点や意図を的確に把握できるアカデミック・リーディングの力を養い、クリティカル・リーディングへとつなぐ土台をつくる。また、エッセイや小説など文学作品などで楽しんで読むことを経験する。さらに、分量の多いものを辞書を引かずに、ある程度のスピードを持って読める読解力をつける。
到達目標	・新聞記事やエッセイ、コラム、解説文を読んで、詳細な事実関係、論理展開、現状、展望、背景、因果関係、理由、根拠、筆者の主張など重要なポイントが把握できる。 ・身近な社会現象や、やや抽象的なテーマについて書かれたエッセイや解説文を読んで、その内容を概念的に整理して理解することができる。 ・エッセイや小説など、十頁程度の分量の読み物を、辞書を引かずに一息に読んで要旨を理解することができる。 ・(CR) 書かれたことを正確に理解したうえで、テキストの内的整合性の観点から内容を批判的に検討でき、書かれたことを自分の考えや経験と照合することができる。 『読む力-中上級』(くろしお出版)など
教材	
学習方法	速読&全体把握、認知タスク&テキスト再読(読みの精緻化)、CR(クリティカル・リーディングの問い)による口頭でのディスカッションとコメント作成、ピアによる読み、スキル表による事前の評価と事後の学習のリフレクション(振り返り・内省・メタ認知を含む)
評価方法	学習者による到達目標の設定と自己評価(ポートフォリオも活用)、筆記試験
<b>学習目標</b>	
1	初回オリエンテーション(科目の目的、授業の進め方)に学ぶとは、授業の進め方に学ぶとは、授業の進め方、多読日記オリ、各自の目標設定)、クリティカル・リーディングの概要・意義・必要性を知る
2	<b>活</b> 教養書の一節を読み、筆者の問題提起、論点、主張、意図などが把握できる(その1)
3	<b>活</b> 教養書の一節を読み、筆者の研究の動機と仮説の概要が把握できる(その1)
8	<b>テ</b> エッセイやコラムを読み、比較、対照、構造化、アナロジーを押さえながら、筆者の主張、意図を端的に要約できる(その3)
9	<b>方</b> 専門書の目次を読み、目的に応じて目次からその本で読むべき箇所を見つけられる(その1)
11	●試験返却、解答解説(学習の振り返りとメタ認知) <b>活</b> 数十頁の分量の読み物を、辞書を引かずに一息に読んで要旨を理解できる(その1)
15	<b>テ</b> テキストの内容を批判的に検討でき、書かれたことを自分の考えや経験と照合できる
16	<b>活</b> 専門分野の入門書の一節を読み、調査結果を比較、対照しながら、筆者の主張が把握できる(その2) ●3か月間の学習のリフレクション、自己評価



回	種類	
2	活動	教養書の一節を読み、筆者の問題提起、論点、主張、意図が把握できる(その1)
8	テキスト	エッセイやコラムを読み、比較、対象、構造化、アナロジーを押さえながら、筆者の主張、意図を端的に要約できる
9	方略	専門書の目次を読み、目的に応じて目次からその本で読むべき箇所を見つけられる
11	活動	数十枚の分量の読み物を、辞書を引かずに一息に読んで要旨を理解できる
16	活動	専門分野の入門書の一節を読み、結果を比較、対象しながら、筆者の主張が把握できる

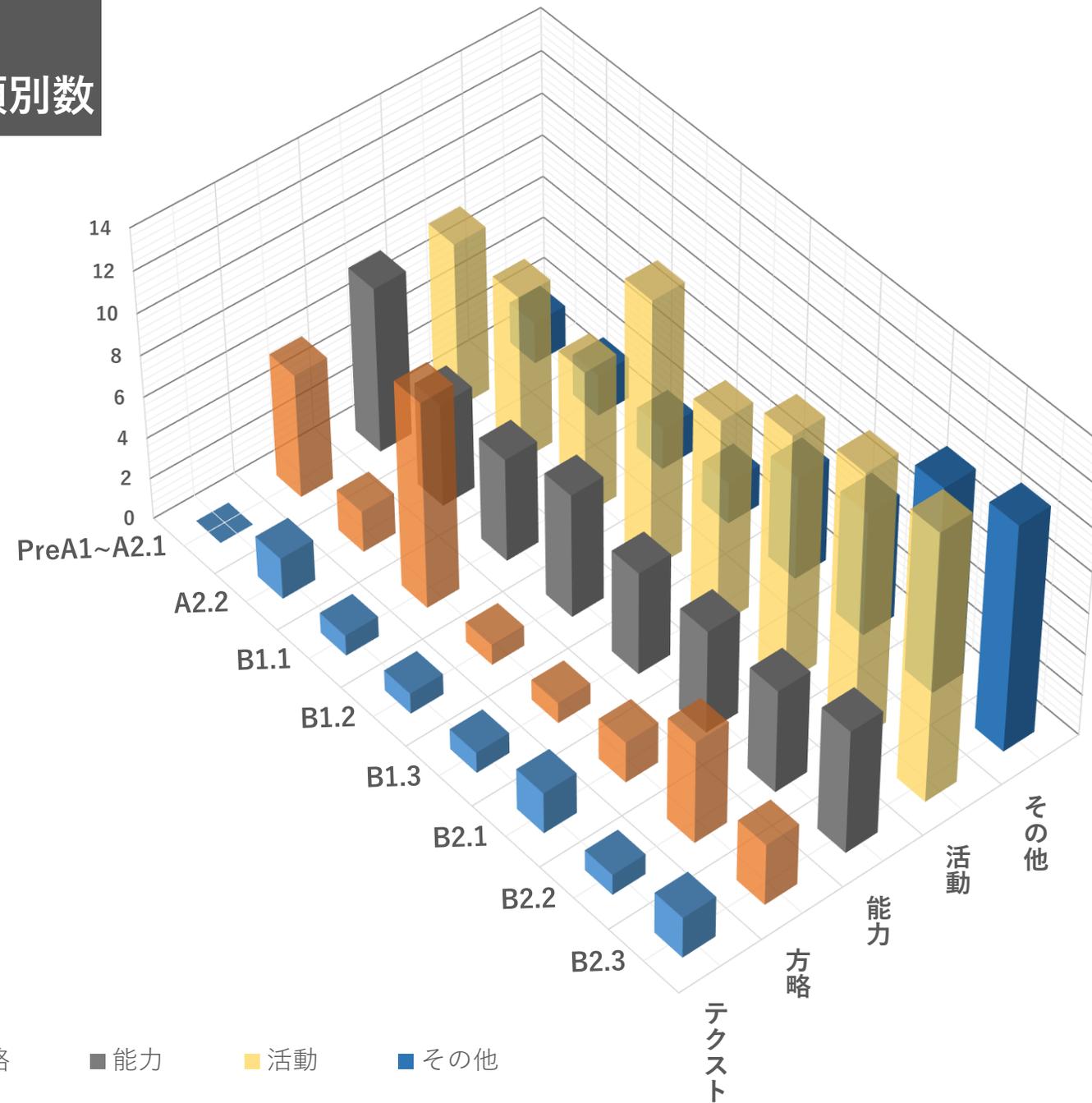
注)モジュール型カリキュラムのため、2回~15回の順序は問わない。

# 「日本語教育の参照枠」の構成



# 5. コミュニカ学院

## Can doのレベル別・種類別数



■ テキスト   ■ 方略   ■ 能力   ■ 活動   ■ その他

誘因：2000年代に始まる多様化

コミュニカ学院  
異文化間教育としての  
日本語教育  
「社会的行動様式4分類」



ドイツ語プロフィール  
(Profile deutsch)

日本語教育の参照枠

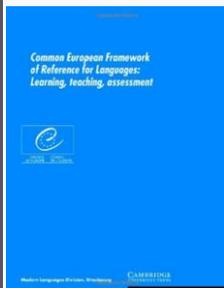
2001

2018/2020

1988

2005

2020/21



CEFR (2001)

CEFR  
(補遺版2018/2020)

# コミュニカ学院「留学」日本語カリキュラムの開発経緯

# コミュニケーション学院「留学」日本語カリキュラムの開発経緯

2006	日振協主催 日本語学校教育研究大会 「特別講演」	吉島茂氏（聖徳大学） 「外国語教育の最前線 ―ヨーロッパ共通参照枠を通して―」
2007	同上	田中和美氏（ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院） 「ヨーロッパ言語共通参照枠組みと日本語教育の現状」
2008	同上	杉谷眞佐子氏（関西大学） 『ヨーロッパ共通参照枠』とProfile Deutsch ドイツ語プロフィールの表現力の 観点―日本語教育への示唆―
2008	コミュニケーション学院	平成19年度文化庁委嘱事業「生活者としての外国人のためのモジュール型 カリキュラムの開発と学習ツールの作成」報告書
2012～ 2017	Can-do Statements 研究会	「日本語学校進学予備教育到達目標スタンダードの作成」報告書
2015	日振協日本語スタンダード・ プロジェクトチーム	「日本語スタンダード（NSスタンダード）・プロジェクト」報告書

# カリキュラムの成果（Can do活用の側面から）

**学習者** ……学習能力の向上、動機付けの維持

メタ認知：日本語で何ができるようになったかー自己理解の促進

学習の個人化：学習者による達成目標の設定と自己評価

学習のコントロール能力 ⇒ エンゲージメント（やる気）

学習への主体的な態度形成（例：進級、再履修の選択など）

**教師** ……「教えること」からの撤退 「学習」の援助へ

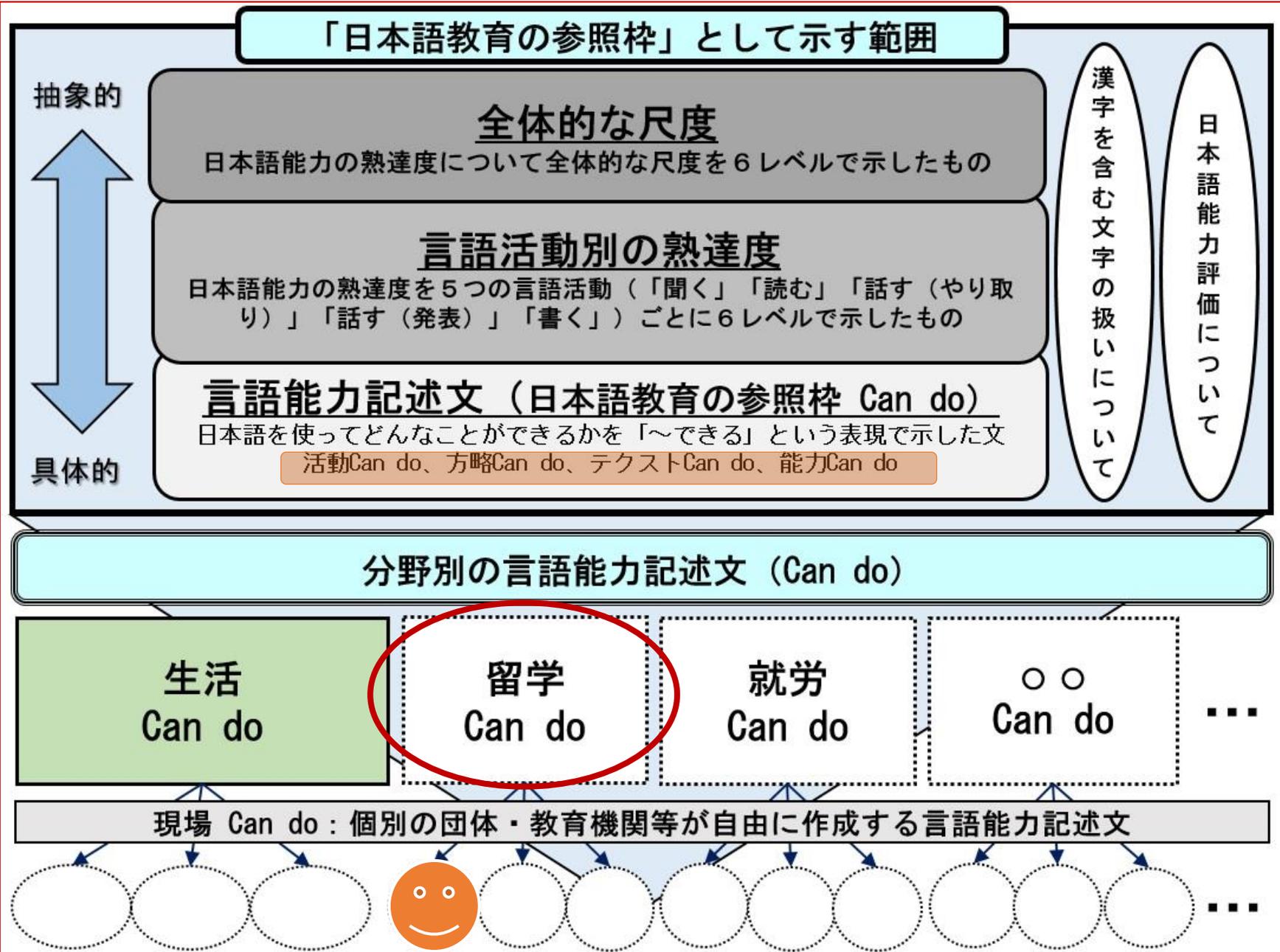
バックワード・デザインに基づいた学習内容・活動の設計力、教材・リソースの作成・検討能力

学習・教授の媒体としてのカリキュラム ……透明性・明確性の担保、自己決定（交渉型カリキュラム）

# 課題：Can do活用の側面から

- 参照枠の理念、自校の理念、教師自身の教育理念の確認
- 「留学Can do」の開発と検証【就学・進学、就労・就職準備、定着、個人的な目的】
- 教師トレーニング：共通参照レベル等に依拠した評価能力、Can doの開発能力
  - オンラインでのコミュニケーション能力、学習方略等の教育実践への落とし込み
  - バックワード・カリキュラム・デザインに基づくデジタル教材/リソースのプール
- Mediation（CEFR 2018, 2020）の教育への落とし込み
- 部分的能力を認めた上で Can doの要素還元主義の罠をいかに避けるか。

# 「日本語教育の参照枠」の構成



# 課題：Can do活用の側面から

- 参照枠の理念、自校の理念、教師自身の教育理念の確認
- 「留学Can do」の開発と検証【就学・進学、就労・就職準備、定着、個人的な目的】
- 教師トレーニング：共通参照レベル等に依拠した評価能力、Can doの開発能力
  - オンラインでのコミュニケーション能力、学習方略等の教育実践への落とし込み
  - バックワード・カリキュラム・デザインに基づくデジタル教材/リソースのプール
- Mediation（CEFR 2018, 2020）の教育への落とし込み
- 部分的能力を認めた上で Can doの要素還元主義の罟をいかに避けるか。

ありがとうございました



奥田 純子  
コミュニカ学院

okuda@communica-institute.org  
<http://www.communica-institute.org>